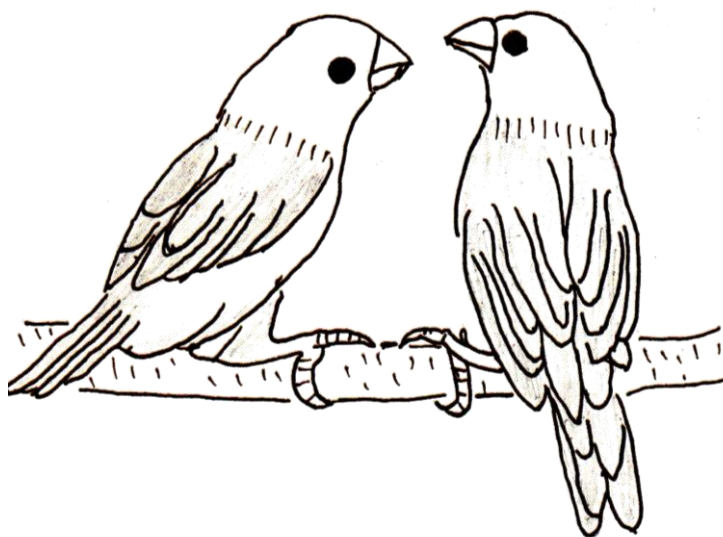


さえずり

作品集第 30 号



相模原失語症友の会
平成 30 年度



目

次



(敬称略)

◆巻頭言	2018 年新規	陰山誠人	1
------	----------	------	---

◆作 文

失語症者意思疎通支援者養成講座に参加して	太田忠良	2
バス旅行	近藤栄治	4
夫の水曜日	久保勝利家族 久保美砂子	5
失語症友の会南の会に参加するまで		
	大野敦子家族 斉藤貴子	6

◆作 品

書	I 賀	II 天地四望春	内山行央	7
	I 賀	II 無有恐怖	久田 稜	9
	I 頌	II 無有恐怖	真弓繁子	11
	I 賀	II 無事	大野敦子	13
	I 頌	II 無有恐怖	板垣暁雄	15

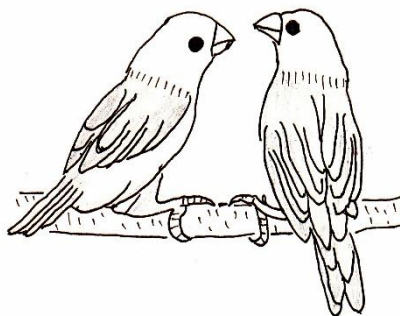
絵	あんずの花・信越線めがね橋	小川 治男	17
	アストロメリアの花・額あじさいの花	古山 久子	18

手作り年賀状 I・II	南の会の皆さん	19
手作り年賀状 III	中央の会の皆さん	21

◆例会担当言語聴覚士の皆さんより

北里大学（相模原協同病院）		
例会の近況報告	佐々木ゆり	22
北里大学東病院		
1 年を振り返って	長谷部雅康	23

さがみりハビリテーション病院	
今年の思い出～グランピング～	恒吉智俊.....24
東芝林間病院	
この1年を振り返って	遠山千佳.....25
 ◆南の会音楽療法担当の音楽療法士さんより	
音楽療法士	
微笑みの国　タイ旅行	越善　由佳.....26
音楽療法士	
6年間の感謝をこめて	平野　香穂.....27
 ◆日ごろお世話になっているボランティアの方々より	
平成30年度バス研修旅行へ同行	松木蘭　一道.....28
民芸手芸作品	田口　さき子.....29
 ◆習字教室で稽古に励む皆さん30	
 ◆この1年を振り返って古山　高.....31	
♣平成30年度バス研修旅行	32
♣平成31年南の会　新年食事会	33
♣平成31年中央の会　新年食事会	34
♣相模原市障害者作品展	35
 ◆編集後書古山　高	



2018 年新規

相模原失語症友の会 会長 陰山 誠人

昨年の3月に「杜のホールはしもと」で、「つくい言語リハビリ友の会」のリハビリがありました。第1グループは、私、太田さん、大和の宮川さんと一緒に行いました。第2グループでは、「電車」のゲームに取り組み、全体で約2時間30分かかりました。

そのほかに、昨年4月、5月、6月と、健康福祉局福祉部障害福祉サービス課で、『今後の重点的な取組事項』について話し合いました。主な内容は、①共生社会の実現に向けた障害等にかいする理解促進、②重度の障害のある人の地域生活の支援でした。また、『平成31年度の見直し事業』では、障害関係扶助費は障害福祉へ、障害者施設交通費は支給上限を設定する等の話し合いが行われました。

また、昨年からの新しい取り組みとして、「失語症者意思疎通支援者」の育成講座が平成30年6月29日～平成31年2月17日までの期間で行われました。主催は、神奈川県言語聴覚士会でした。相模原失語症友の会には、5名の受講生が参加しました(9月、10月は高橋夫婦、11月と1月は佐藤さん、12月は並河さん)。さらに、9月には合同実習として、上大岡駅の『ウィリング横浜』の12階で講座が行われました。私は1班に所属し、喫茶店で約4名の参加者と1対1で話しました。11月の合同実習は、関内駅の神奈川県総合医療会館の2階で行われ、各班に分かれ、参加者と1対1と話しました。この取り組みは、平成31年2月に終了予定です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

失語症者意思疎通支援者養成講座に参加して

副会長 中央の会 太田 忠良

神奈川県では失語症のある人が安心して自分らしく暮らし続けることができるよう、失語症者に関する知識と会話技術を身につけた「失語症者向け意思疎通支援者」の養成が始まります。この事業を成功に導くためには、神奈川県、言語聴覚士、失語症友の会の3者の連携が欠かせません。

今回、私は、この講習会に失語症当事者として出席しました。以下に日程と概要、感想を示します。

1. 平成30年9月30日（日）9：30～11：50

ウイーザ横浜 12階 研修室

- ・失語症者4名で意思疎通支援者5名、4グループに分かれる。
 - ・失語症者が自己紹介、家族、1日の暮らし方を話す。
 - ・外出として、ウィング上大岡地下1階、喫茶店でコーヒーを頼んで飲む。
 - ・京急百貨店で買い物、親戚にお茶を送る。
- 意思疎通支援者にお茶をサービス。

感想：

字は書けるが右手が不自由なので、意思疎通支援者に送り状を書いて貰う。

2. 平成30年11月11日（日）9：20～11：30

神奈川県総合医療会館 2階 会議室

- ・失語症者6名で意思疎通支援者4名、内1名は言語聴覚士。
 - ・失語症者が自己紹介、出身地、学歴、現住所、家族を話す。
 - ・意思疎通支援者3名が話を聞き出す。
- 思い出、映画、山登り、気にいった店、昨日の晩ご飯内容、旅行等。
- ・意思疎通支援者1名につき10分の範囲内で失語症者に聞き出す。
 - ・感想：大部分は昔の話で、思い出すのが大変。
- 質問が矢継ぎ早にきて、相模友の会の近況報告より難しい。

3. 平成 31 年 2 月 17 日（日）9：20～11：30

神奈川県総合医療会館 2 階 会議室

- ・失語症者 6 名で意思疎通支援者 5 名、内 2 名は言語聴覚士。
- ・失語症者が自己紹介、現住所、出身地を話す。
- ・意思疎通支援者 3 名が、子供の頃の遊び、最近よく観た番組、一週間を振り返る、雪の多さについて話す。

感想：

意思疎通支援者なので話のペースが速い。質問攻めで失語症者は大変。

失語症は話す、理解する、読む、書く、計算することに何らかの問題を持っています。

平成30年度

神奈川県『失語症者向け意思疎通支援者養成講習会』

受講案内

●『失語症者向け意思疎通支援者』とは？

失語症（脳卒中などの後遺症による言葉の障害）のある人の外出に同行したり、交通機関利用援助をしたり、当事者会（失語症友の会など）でのコミュニケーションの援助などを行う人のことです。

＜講習会のご案内＞

§講習会の内容と日程§

①講習8回（講義・演習・実習）：平成30年6月29日～平成31年2月17日（詳細下記ご参照下さい）

②実習6回（失語症者の集まる場所にて、平成30年8月～平成31年2月の間にて設定）

※実地実習の日程は、講習の中でお知らせします。 ①②合計40時間

受講料：無料 ※実費として2000円（テキスト代等）

	日時	講習内容	時間	会場
①	6月 29日（金）	開講式 失語症とは何か、意思疎通支援者とは何か	12:20～16:40	神奈川県総合医療会館 2階A会議室
②	7月 8日（日）	コミュニケーション支援技法Ⅰ	13:20～16:40	
③	7月 22日（日）	コミュニケーション支援技法Ⅰ 合同実習	9:30～13:00	
④	8月 2日（木）	身体介助の方法	13:20～16:40	ウィリング横浜 10階 介護実習室2
⑤	9月 18日（火）	外出同行支援 派遣事業と会話支援者の業務	13:30～16:20	神奈川県総合医療会館 2階 A会議室
⑥	9月 30日（日）	身体介助実習 合同外出同行支援実習	9:15～11:45	ウィリング横浜 12階 研修室 124-125
⑦	11月 11日（日）	合同コミュニケーション支援実習Ⅰ	9:30～12:00	神奈川県総合医療会館 2階A会議室
⑧	2月 17日（日）	合同コミュニケーション支援実習Ⅰ 修了式	9:30～12:00	

＜講習会受講の申込み＞

1) 対象者

- ◆神奈川県内に在住・在勤・在学中の方
- ◆満20才以上である方 ◆全講習会に出席可能な方
- ◆講習会終了後、神奈川県に登録し、失語症者向け意思疎通支援活動ができる方

2) 申し込み方法

- 神奈川県言語聴覚士会HP（Q検索）より⇒
- メールの場合：裏面の項目をメールで送信してください
メールアドレス ishisotsuu@kanagawa-siht.org
- 郵送の場合：本紙裏面が申込書となっています。
申込書にご記入の上、宛名を書いた返信用封筒（82円切手貼付）を同封し下記までご郵送下さい。
宛先：〒236-0005 神奈川県横浜市長谷区並木 2-8-1
横浜なみきリハビリテーション病院
リハビリテーション科 阿部 学

3) 申込み締め切り平成30年6月8日（当日消印有効）

4) 受講の可否

審査の上、6月中旬にメールか郵送にてご連絡します。

5) 問い合わせ先

- メールアドレス：ishisotsuu@kanagawa-siht.org
- FAX：045-370-7823
- ※ご連絡先を明記して下さい
- 電話：045-788-0031
- ※平日12～13時、17～18時
（上記時間帯でお願いいたします。
不在時や臨床業務中は折り返しご連絡をさせていただきます）

横浜なみきリハビリテーション病院
リハビリテーション科 阿部 まで

バス旅行

中央の会 近藤 栄治

バス旅行の日は、天気が良く、絶好の旅行日和でした。この日は横浜三溪園、キリンビール工場の見学のコースでした。

まず、三溪園の方から見学をしました。私は初めての三溪園でした。案内ボランティアさんがついて、説明をしていただいたので、とてもわかりやすく、広い園内を見学することが出来ました。

次にキリンビール工場の方に向かいました。こちらでは、案内ガイドさんの説明を聞きながら、ビールが出来るまでの工程を見学しました。ビールの素となる麦芽の試食も出来、今回のバス旅行の1番の楽しみでした。いろいろの種類のビールの試飲が出来て、とても美味しかったです。

病気を発症してから、少しずつ悪化してきており、今は出掛けることが少なくなりました。遠出の旅行も出来なくなってきて、この失語症友の会で毎年行うバス旅行が唯一の楽しみになっています。

今年も初めての場所に行けて、楽しい1日となりました。皆さんありがとうございました。



夫の水曜日

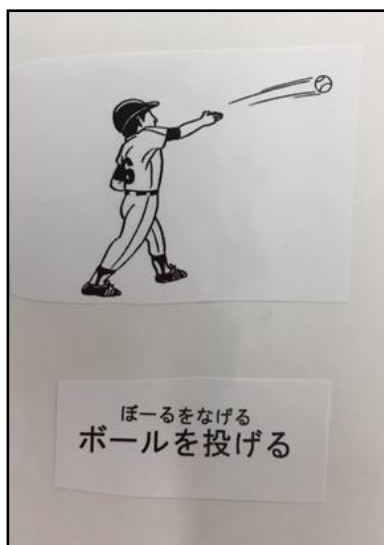
南の会 久保 勝利 家族 久保 美砂子

我が家の庭の淡いピンクの梅の花が満開を迎え、バス通りの河津桜も濃いピンク色、しだれ梅も咲き匂っています。

夫のスケジュールでは、水曜日の午前中は散歩となっております。散歩に行くと時々顔見知りの方にお会いすることがあるようで、家に戻ると早速地図を広げて私に話してくれて、夫との話題が広がります。

そして、第2、第4の午前中は北里大学東病院の言語集団訓練に行きます。集団訓練では軽い体操の後、挨拶、次に皆が楽しみにしているカードによる言語訓練です。トランプのババ抜きみたいなものですが、用意してある手作りカードの絵の下の文字を読み、相手に伝えてカードを抜き、同じカードを揃えて行きます。カードが0になった人が勝ちです。最後に近況報告で終わります。

10年近く言語の訓練を受けて成果があるのかと心配でしたが、最近は言葉がハッキリして来て、しゃべる単語の数が増えて来ました。リハビリの大切さを実感しています。



失語症友の会南の会に参加するまで

南の会 大野 敦子家族 斎藤 貴子

母は平成 25 年 7 月に脳梗塞を起こしました。入院治療を終えて退院したあとは自宅に戻りました。家に帰ってからは、自室に閉じこもっている生活でした。仲良しだった友人とも面会を拒み、娘としては「このままでは、だめになってしまうのではないか...」と、何とかしなければいけないと思っていました。

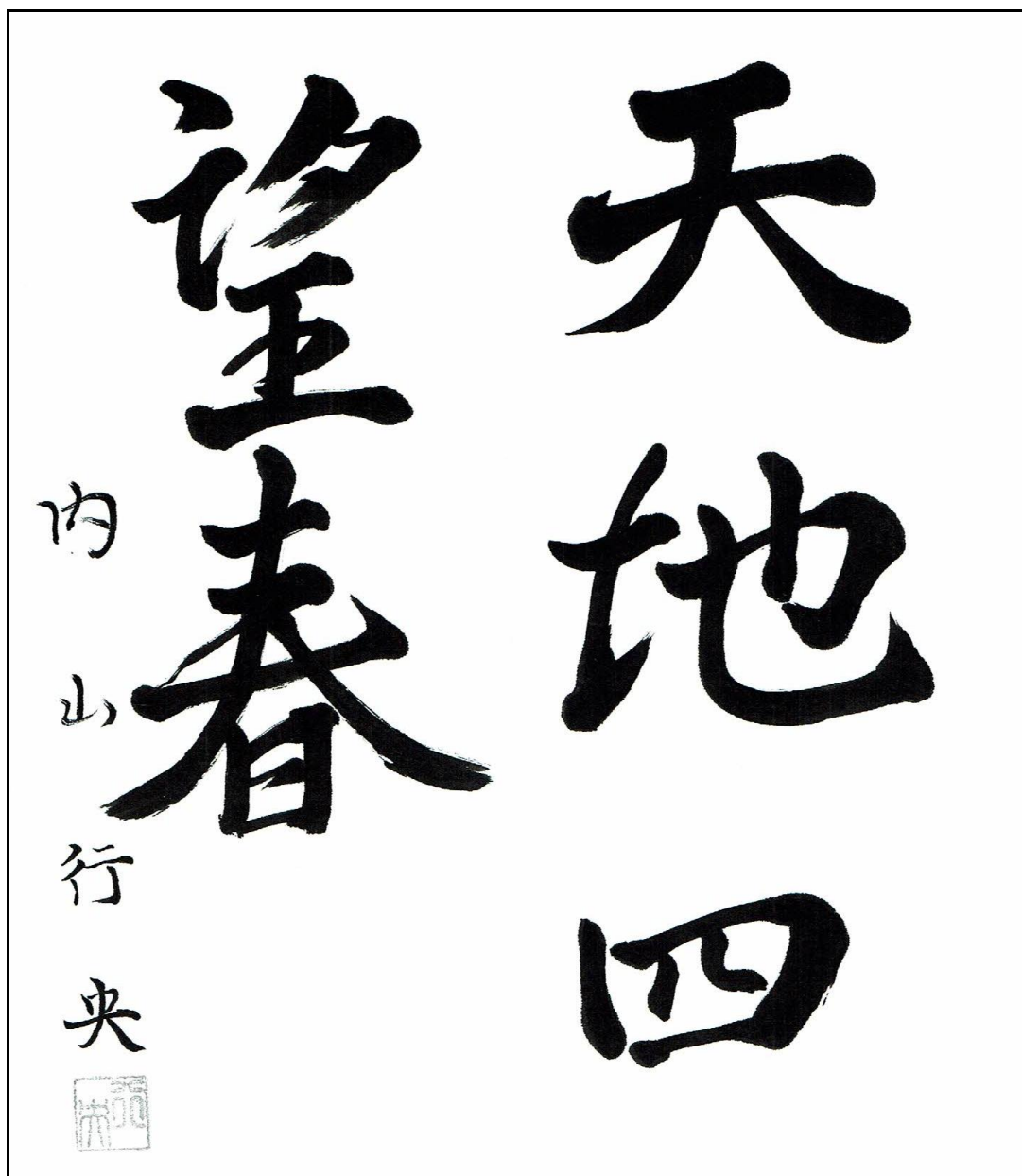
そんなとき、知人の紹介で相模原失語症友の会を教えてくださいました。早速私 1 人で見学を何回かさせていただき、失語症の人達が言葉は不自由でも、皆楽しくニコニコ笑顔で集会に参加しているの見て、「この仲間に入れば、母は自信を戻してくれるのではないか？」と思いました。また、お習字教室も見学させていただきました。そして、母を 1 年半の時間を掛けて説得を続けた結果、若い時にお習字をやっていたこともあり、お習字教室に興味を持ち自分も仲間に入ってみようと思ったようで入会を渋々了解してくれました。稽古を重ねるうちに、お習字の面白さが戻り、現在は例会と習字教室へ参加しています。最初は、なかなか行くのを嫌がりましたが、今では月 1 回の例会、習字教室にとっても楽しく通っています。



中央の会内山行央さん作品I 書



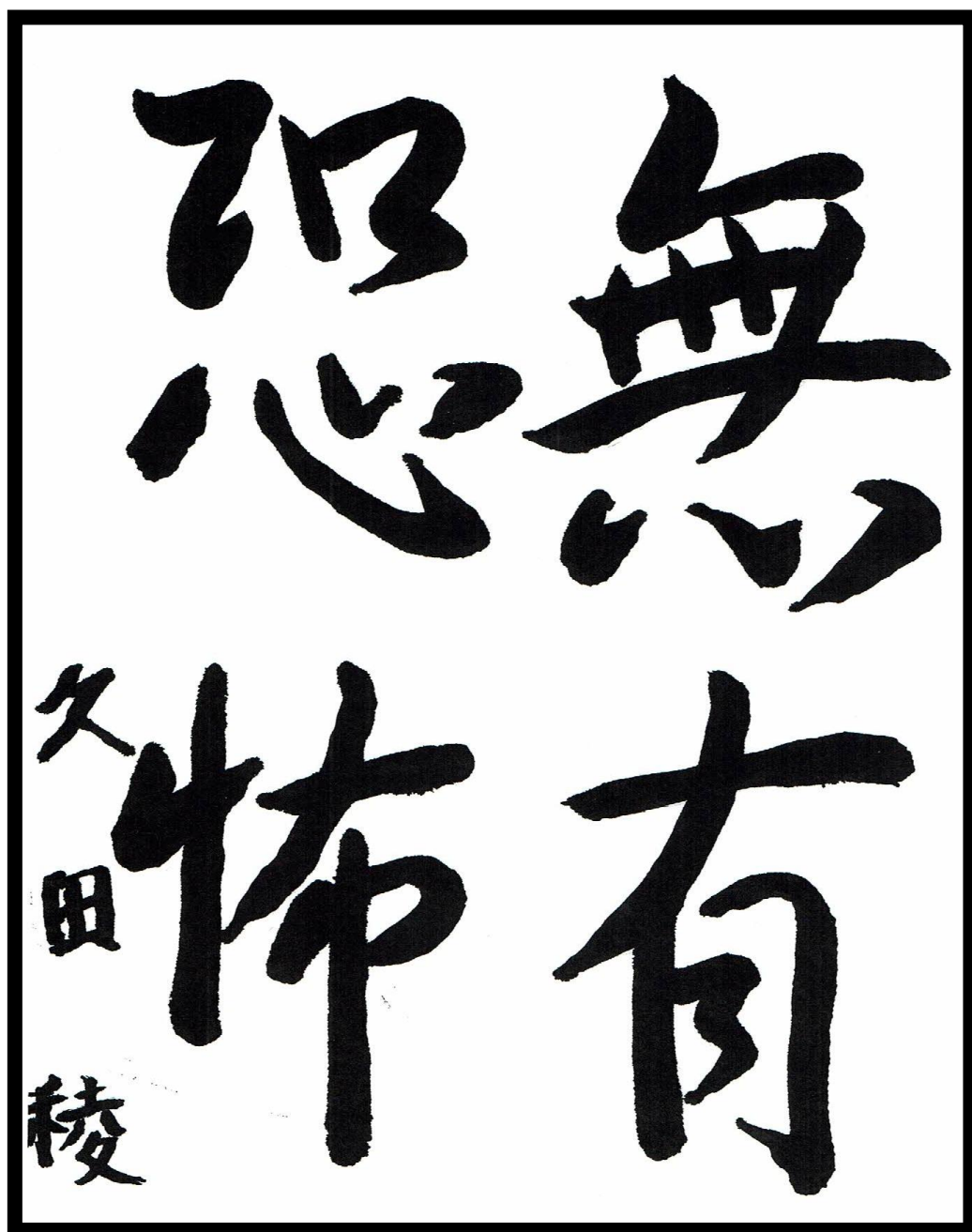
中央の会 内山行央さん作品Ⅱ 書



南の会 久田 稜さん作品I 書



南の会 久田 稜さん作品II 書



南の会 真弓繁子さん作品I 書



南の会 真多繁子さん作品II 書



南の会 大野敦子さん作品I 書



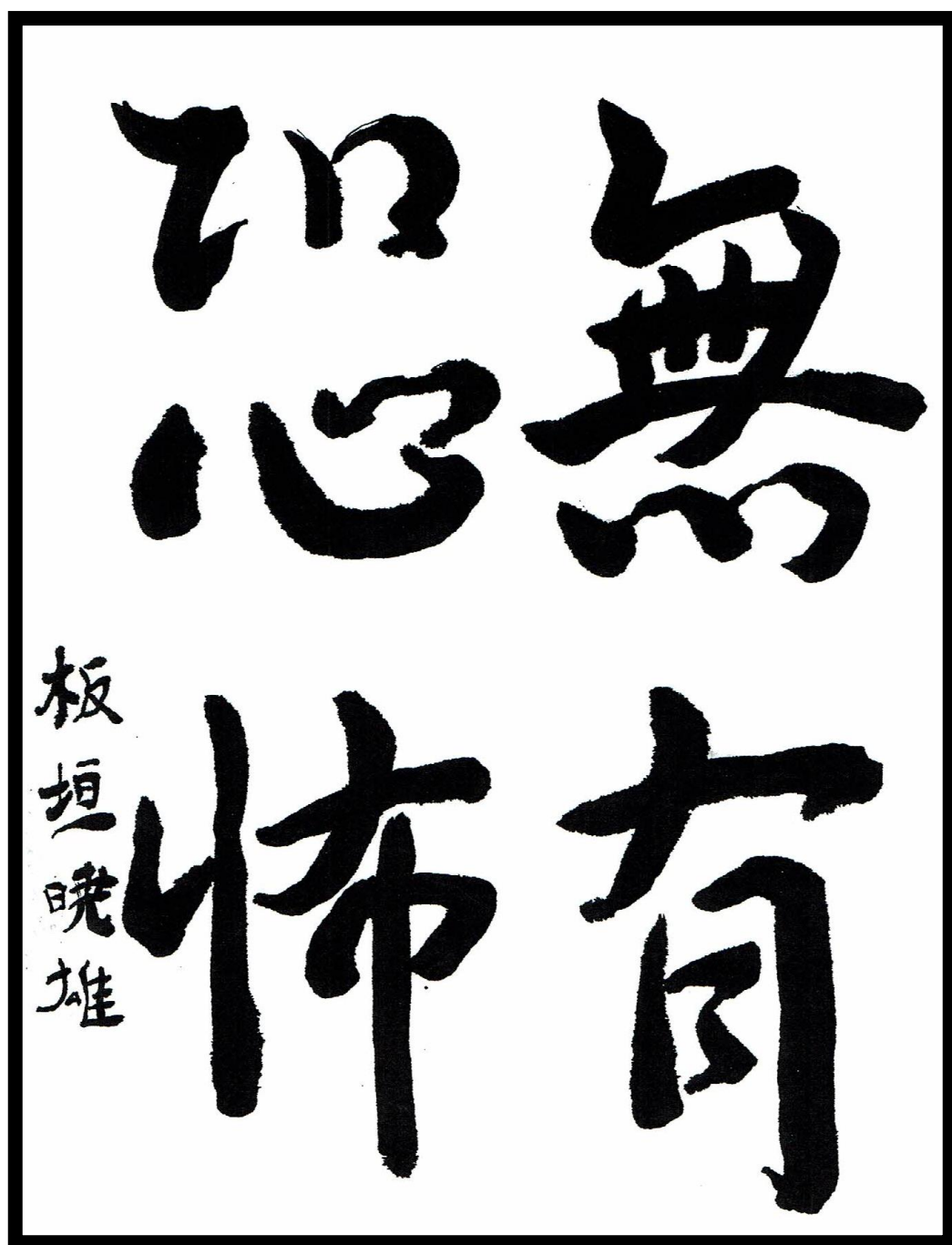
南の会 大野敦子さん作品II 書



南の会 板垣暁雄さん作品I 書



南の会 板垣暁雄さん作品II 書

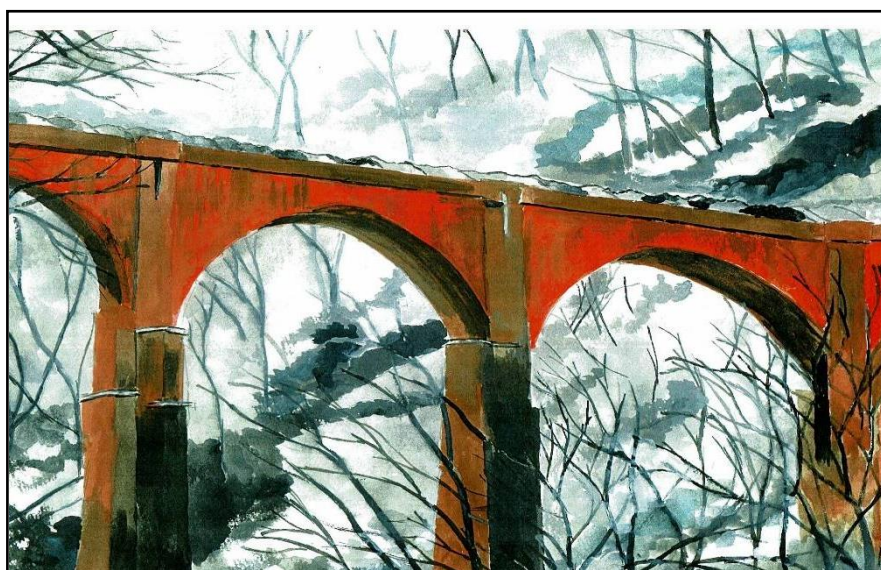


中央の会 小川治男さん作品 絵

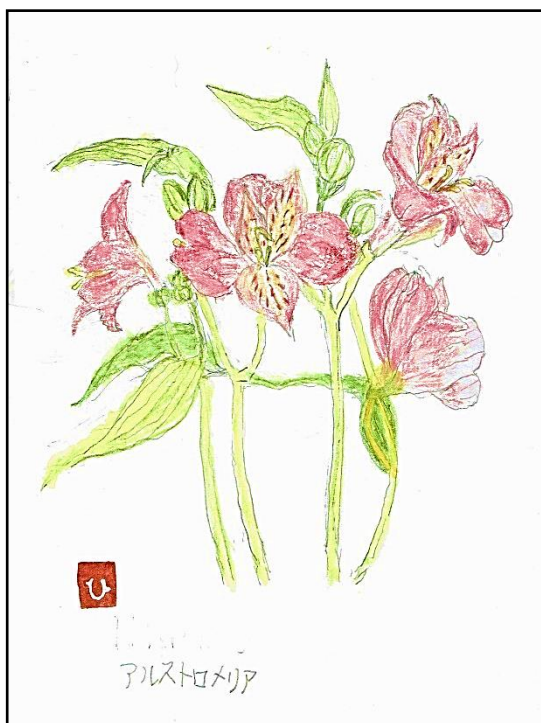
あんずの花



信越線めがね橋



南の会 古山久子さんの作品 絵



アルストロメリアの花

額あじさいの花



平成30年度手作り年賀状I 南の会の皆さん

指導担当：遠山先生、平野先生



麻薙伸枝



稲垣龍雄



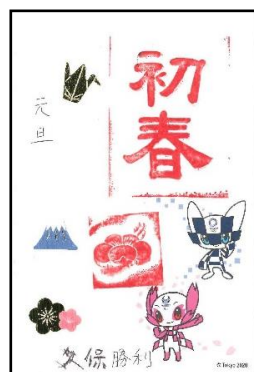
大野敦子



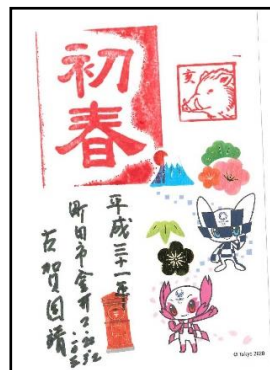
大堀孝章



陰山誠人



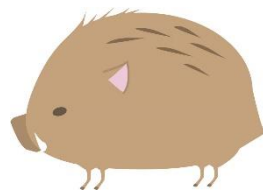
久保勝利



古賀国靖



中澤秀樹



平成 30 年度手作り年賀状Ⅱ 南の会の皆さん

指導担当：遠山先生、平野先生



花輪義昭



久田稔



古山久子



真多繁子



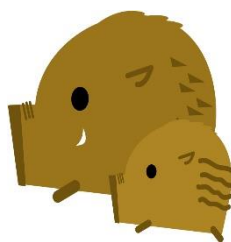
宮原 静



牟田口文子



並河好美



平成 30 年度手作り年賀状Ⅲ 中央の会の皆さん

指導担当：樋口先生



内山行央



大熊信雄



太田忠良



大堀孝章



倉田 林



陰山誠人



近藤栄治



佐藤敏雄



猶原 晃

例会の近況報告

北里大学（相模原協同病院）言語聴覚士

佐々木 ゆり

昨年は、相模原協同病院の ST 樋口さんの育休代替として、相模原協同病院に勤めました。久しぶりに「中央の会」のお手伝いもさせていただくことができて、とても充実した日々でした。

毎月の例会では、歌の後に皆さんから近況報告をしていただいています。テーマに沿ってお話ししてくださる方もおられますし、最近あった出来事などをお話ししてくださる方もいらっしゃいます。

ST として進行をしなければいけないのに、皆さんのお話が興味深く、夢中になってしまい、仕事を忘れてしまうこともしばしばありました。昨年はお勧めのお花見スポットにはじまり、ご家族のお話、お庭に咲いた花のこと、いつものお散歩コースなどなど...オレオレ詐欺の電話がかかってきたなんていうショッキングなお話もありましたね！

近況報告では、1 人の方のお話から話題が広がって、意見交換ができることもあり、お話する方、聴く方、それぞれに有意義な場になっていると感じています。今は、SNS で多くの人と簡単につながれる便利な時代になりましたが、例会のご様子を拝見していると、たとえ短いことばであっても、同じ場を共有しながら話すこと、聴くことの大切さを改めて感じます。

中央の会は、新しい会員さんも入ってくださり、一層賑やかで楽しい会になりました。近況報告でもまたいろいろなお話を伺えそうで、楽しみです！

相模原協同病院は 4 月から樋口さんが育児休暇から復帰する予定で、山口さん、石塚さん、樋口さん、壬生さん、湯浅さんの 5 人体制に戻ります。中央の会のお手伝い（偶数月）も、相模原協同病院の ST が交代で伺う予定になっています。皆さんが楽しめる例会になるよう、お手伝いさせていただくと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。私も時々お邪魔させていただきますね♪

1 年を振り返って

北里大学東病院 言語聴覚士

長谷部 雅康

私は昨年体調を崩したこともあり、健康的な生活を送るように心がけました。心がけだけで長続きしないものも多くありましたが、時間のあるときには、近所のスポーツセンターでトレーニングをしたり、卓球やバドミントンなどで身体を動かすことがマイブームとなり、かろうじて今も続けることができています。

特に卓球は、妻や友達に付き合ってもらい遊びの範囲でやるはずが、やりはじめたら熱が入り、スポーツセンターでグループに混ぜてもらって練習したり、卓球スクールでレッスンを受けたりしたこともありました。そのおかげで体力がつき、スポーツを通して近所の人々と交流を深め、昨年の冬は風邪をひかずに楽しく乗りきることができました。

みなさんは健康のためにどんなことを心がけていらっしゃるでしょうか。今後、お話を伺う機会が無くなってしまうのは寂しいですが、次期担当の中島さんから色々なお話を聞いたり、友の会たよりでのみなさんの近況報告をととても楽しみにしています。

この2年間、失語症友の会の皆様には大変お世話になりました。至らない点が多かったと思いますが、いつも温かく迎えてくださりありがとうございました。友の会の皆様おひとり、おひとりの笑顔が思い出され、素敵な出会いだったなと思います。皆様お身体に気をつけて、お元気にお過ごしください。またお目にかかることを楽しみにしています。

2年間本当にありがとうございました。

今年の思い出～グランピング～

さがみりハビリテーション病院 言語聴覚士
恒吉 智俊

奇数月に「中央の会」に参加させて頂いております、恒吉です。

去年は、キャンプなどアウトドアを楽しむことができた1年になりました。特に思い出になったのが、『グランピング』です。『グランピング』とは“グラマラス（魅力的）”と“キャンピング”を掛け合わせた造語です。特徴はテントや食事の準備及び片付けなどの手間をかけず、キャンプを楽しむことができることです。

私が行った日は曇時々雨の天気で、キャンプであれば“雨に濡れながらテントを建てないと...”など憂鬱な気持ちになってしまうものです。しかし、グランピングではテントの準備が必要ないため、憂鬱な気持ちにはならず、現地に到着すると、そこにはモンゴルの遊牧民が住むような家（ゲル）が並んでおりました。行った時期が11月で肌寒い季節でありましたが、ゲルの中にはストーブがあり、快適に過ごすことができました。食事は“下味の付いた肉”や、“野菜のスープ”などが準備されており、バーベキューをしながら食べました。食後はもちろん面倒な食器洗いはせず、のんびりすることができました。

通常のキャンプでは手間をかけることが楽しく、またそれが魅力にも感じますが、たまにはグランピングのように楽をしながら自然と触れ合うことも一つの選択肢と感じる思い出になりました。

最後に、皆様といろんなお話をしながら、より知り合うことができればと思っております。相模原の失語症友の会に参加して2年目になる2019年も、どうぞよろしくお願い致します。



この1年を振り返って

東芝林間病院 言語聴覚士

遠山 千佳

南の会に参加させていただいて、あっという間に1年が経ちました。言語聴覚士として働きはじめてから3年目。日々行っている1対1のリハビリでは知りえないことを、友の会の活動を通して沢山学ばせていただいたように思えます。

初めて参加した日、皆さんの前に立ってお話した時の緊張感は今でも忘れられません。しかし、皆さんが優しく話しかけてくださったので次第に緊張感もほぐれていきました。本当にありがとうございます。

普段は入院された方と関わることばかりで、失語症の方が退院後どのような生活を送り、どんなことを感じていらっしゃるか、毎回のお話を通して知ることが出来てとても勉強になりました。友の会に参加することで、普段リハビリで関わる入院中の方に対しても、退院後の生活をイメージして関わる事が出来た1年だったと思います。

また皆さんのお話を伺いながら、月に1度の友の会が皆さんにとって他の方との交流の場であったり外出の機会であったり、とても大切な場所であることを知りました。皆さんに楽しんでいただくためにはどのようなお話や質問をしよう、どのようなゲームを企画しようなど自分なりに考えて毎回進行していましたが、皆さんに支えていただく場面がばかりだったなあと反省しています。それと同時に、私自身がみなさんと過ごす時間をとても楽しんでいたことに気づきました。

来年度も引き続き私が南の会を担当させていただきます。より皆さんと共に楽しい会にしていけたらと思っておりますので、引続きどうぞよろしくお願いいたします。

微笑みの国 タイ旅行

音楽療法士
越善由佳

2018年6月に初めてのタイへ行ってきました。

東京羽田を出発して約7時間。バンコクのスワンナプーム空港に到着して、そこから更に車で2時間弱。サムットソクラーム県という街へ行ってきました。福岡に留学経験のある日本語ペラペラのガイドさんいわく、なかなか日本人がこのツアーに来ることはないとのこと・・・ガイドさん自身も初めて行くところばかりで、タイ人もなかなか観光で行かない街ということですね。丸2日間、サムットソクラーム県にいましたが、確かに周りの観光客で日本語を聞くことは一度もなく、日本語で会話をしていたのは私たちだけでした。アジア圏内への海外旅行は初めてだったので、見るもの、聞くもの、触れるもの全てが新鮮でした。

仏教の国、タイ。僧侶が原付バイクで托鉢を回っている光景はなかなか現代的でしたが、私が知っている日本の仏教文化とはだいぶ違ったものでした。いろんな寺院もめぐりましたが、歴史を感じられたり、地域の方の生活のとても近い存在だということ、なんといっても息をのむほどの圧巻な黄金に輝く内装はとても感動的でした。行った6月はちょうど雨季だったため、日本のゲリラ豪雨は鼻で笑われるくらいのスコールも経験しました。自然の凄さを身をもって体験しました。食べ物は基本的に辛いですが、美味しかった印象しかありません！



6年間の感謝をこめて...

音楽療法士

平野 香穂

「失語症友の会のボランティアを募集しています」と先輩から連絡を頂いたあの日、当時は、こんなにも長い間続けることになるとは思っていませんでした。学部生として、大学院生として、そして社会人として、様々な立場で友の会に関わることができ、本当に感謝しております。

友の会で経験させて頂いた様々な出来事は、今、私が職場でテーマにしている「在宅の支援・地域でのサポート」に繋がることが多くありました。そのため友の会の帰り道は、携帯電話のメモ書き機能にたくさんの「気づき」を書いてました。6年たった今、改めて当時の文章を読み返してみると、勉強したことのみならず、毎月の友の会をどれだけ楽しみにしていたのかを、身をもって感じました。ご一緒した曲目、教えて頂いた様々な逸話など... 数え切れないくらいの思い出がつまっています。友の会の皆様の人生の1ページに、1人の音楽療法士として関わることができたことを、とても嬉しく思います。若輩者の私をいつもあたたかく見守って下さり、本当にありがとうございました。これからも1人の人間として成長していきたいと思います。

友の会の皆様の人生が、この先もたくさんの笑顔と音楽あふれる日々でありますように。

6年間の感謝を込めて、本当に、本当にありがとうございました。

平成 30 年度バス研修旅行へ同行

南の会ボランティア
松木 蘭 一道

2019 年 11 月 27 日火曜日に、失語症友の会のバス研修旅行で横浜三溪園に行きました。

三溪園は、明治、大正時代の実業家「原善三郎」「三溪親子」が二代にわたり作り上げた広大な日本庭園です。庭園の中には、歴史的な建造物が配置されていました。庭園の美しさで見事に圧倒されながら昔の金持ちのスケールの大きさに感嘆した一日でした。



👉
臨春閣
1649 年



御門
1708 年



民芸手芸作品

南の会ボランティア
田口 さき子



習字教室で稽古に励む皆さん

習字指導担当：鈴木恵子、青木順子先生
(ボランティアグループ 和みなみ 所属)



この一年を振り返って

事務局 古 山 高

今年度も相模原市を始め社協、れんきょう、市内病院の言語聴覚士会、音楽療法士の方々、その他関係団体等多くの皆さんに支えられて活動が出来ましたことにまずは感謝お礼を申し上げたいと思います。

新規会員につきましては5名の方々が正会員として入会されました。今年度は中央の会に4名の方々が入会され中央の会の在席会員は12名になり、2桁の会員で例会を開催することが出来るようになり大変良かったと思います。南の会には女性会員1名の入会があり南の会では女性会員が7名在席しております。今後も新規の仲間を増やす活動は大切なことでありますので、引き続き関係各方面への声掛けを行って行きたいと思います。

市の障害者向けホームページ「さーくる」の開設にともない、その中にテナントで相模原失語症友の会のホームページを開設して約2年半になりますが、毎月コンスタントに150件以上の閲覧者があり、相模原市内を始め近隣市町村での失語症の啓発活動に寄与されていると思います。

今年陰山誠人会長が誕生して1年経過しました、この1年勉強されて、全体も見えて来たと思いますので、早くに若年化した陰山内閣を樹立していただき、若い人による会運営をしていただきたいと思います。

新年度も引き続き会員の皆さんの声を聞きながら、更に充実した活動で有意義な友の会にして行きたいと思っています。新規会員の加入促進、若年化、市民を始め一般の方々に失語症を正しく理解していただくための啓発活動、失語症者が不自由なく生活出来るよう支援体制を作っていく必要がありますので、関係先に理解と支援を要請して行きます。相模原市が進める障害者と一般の人達が「共にささえあい 生きる社会」の実現を目指す運動の一翼も担って行きたいと思います。

今年度スタートした失語症者意思疎通支援者養成講座で、相模原失語症友の会もご協力申し上げ実習会場として受講生を受入ました。また合同実習には当事者も派遣して協力いたしました。今後最末端の全国の市町村で、早く失語症者支援制度が定着することを願い、失語症者が安心して暮らせる社会が早く実現出来るよう私達も出来る限りの支援活動を行って行きます。

平成 30 年度バス研修旅行

日時：平成 30 年 11 月 27 日（火）

行き先：横浜三溪園・麒麟ビール横浜工場

参加者：23 名

晴天にも恵まれて、三溪園では庭園散策と歴史的な建造物を見学、麒麟ビール横浜工場ではビールの製造工程を見学、最後に 3 杯のビールを試飲して、皆さん大変満足した楽しい研修旅行になりました。



平成 31 年南の会 新年食事会

日時：平成 31 年 1 月 8 日（火） 13：30～14：00

会 場：大野南公民館 2 階コミュニティ室

参加者：18 名

当日は家族、ボランティアの方々に準備していただいた食事、お菓子をいただきながら歓談しました。またゲーム、福引等の賞品の寄付がありました。



平成 31 年中央の会 新年食事会

日時：平成 31 年 1 月 19 日（土）13：30～14：00

会 場：中央公民館 1 階コミュニティ室

参加者：21 名

当日は家族の方々に準備していただいた食事、お菓子をいただきながら歓談しました。また双六ゲームでは賞品の寄付があり、その商品を順位順に自分の好きな物を受け取りました。



相模原市障害者作品展

日時：平成 30 年 12 月 7 日（金）～9 日（日）

場所：あじさい会館 6 階 第 1、2 展示室

相模原失語症友の会も参加しました。

3 日間の来場者数が約 330 名と多くの市民が鑑賞してくれました。

失語症友の会コーナーでは長く時間を掛けて鑑賞する方が多かったと事務局から報告を受けております。



☆☆ 編 集 後 記 ☆☆

作品集『さえずり』第 30 号発刊に際し、会員と家族、そして友の会を支えてくださる関係者の多大なるご協力をいただき、お陰様でここに発刊することが出来ましたことに深く感謝申し上げます。

この『さえずり』を今後永く継続して行くために、皆さんの忌憚の無いご感想、ご要望、ご意見をお聞かせいただけましたら幸甚に存じます。

さらに次号では今号以上の方のご投稿をお願い申し上げます。

この 30 号の編集・印刷作業を音楽療法担当平野先生と北里大学東病院の言語聴覚士の皆さんにご協力をいただき大変助かりました。ありがとうございました。

編集担当事務局：古山 高

さえずり第 30 号

発行年月日 平成 31 年 3 月 30 日

発行者 相模原失語症友の会

会 長 陰 山 誠 人



相模原市では障がいの有無にかかわらず、あらゆる人の尊厳が守られ、安全で安心して暮らせる共生社会の実現に向けて「共にささえあい生きる社会」をキャッチフレーズとし、障がいなどに関する理解・啓発を進めています。